

ひょうごの農林水産技術200号発行に寄せて

農業技術センター所長 相野 公孝

「ひょうごの農業技術」のルーツは、「兵庫の農業改良」、「兵庫農試情報」、「総合センター情報」と続き、「総合センター情報」に代わり1982年5月から始まった。

当初は年6回の発行であったが、現在は4回となっている。第1号が「大豆特集」として発行された。その時代のトピックスが記載され、また、最新の研究が紹介された。これまでに数多くの原稿を作成してきたが、最初に執筆した第18号（1985年3月）「農業におけるコンピュータ利用特集」は、刷り上がりをワクワクして待ったのを今でも覚えている。今後、300号、400号と新しい研究情報を発信し続け、多くの開発技術が生産現場で活躍することを祈念する。



ひょうごの農業技術 第1号

「ひょうごの農林水産技術」200号発行に寄せて

畜産技術センター所長 大川 浩一

兵庫県における畜産分野の試験研究は明治39年に県立但馬種畜場として設立されたのが端緒であり、その後、姫路市今宿に県立畜産試験場として開設され、姫路市大野を経て、現在の加西市に昭和60年に移転整備されました。当時は、畜産の施設も開かれた研究機関として整備されましたが、宮崎県で甚大な被害をもたらした口蹄疫が、万一、場内で発生した場合、但馬牛を絶やすことになりかねないため、現在、大規模な改修工事を行っています。畜産技術センターで飼養している種雄牛の大半を北部農業技術センターに移動させ、北部農業技術センターの検定牛を畜産技術センターに移動させます。さらに畜産技術センターに検疫牛舎を整備し、それぞれのセンターの防疫体制を強固にするため、更衣消毒施設や飼料資材搬入施設なども整備します。すべての施設が完成するのは平成30年度末になりますが、世界に誇る但馬牛、神戸ビーフの研究、改良拠点として、畜産技術センターはさらに発展していきます。



但馬牛種雄牛